

2015年東北学生テニス選手権大会(夏大)以降の

本戦ドローについて

平成 27 年 6 月 24 日

東北学生テニス連盟幹事長 平佳矢

暑さが日増しに厳しくなる中、いかがお過ごしでしょうか。この度は、今年の 3 月にシェルクム仙台で行われた理事会でも議題に上がっていた本戦ドローの見直しについて東北学生テニス連盟から提案する案について説明させていただきます。

そもそもなぜ本戦ドローを見直すという議論が起こったのか経緯を説明いたします。2 年前までの本戦ドローは、男子シングルスであれば本戦ドロー 64 本のうち 32 本は本戦シード、残りの 32 本は予選上がりでした。しかし、宮城県テニス協会から本戦の半数が本戦シードというのはおかしいというご指摘をいただき、本戦シードの本数を半分の 16 本に減らす代わりに、本直というシードではないが予選を免除されて本戦から大会に参戦できる枠を 32 本作り、予選上がりが 16 本にするという形に落ち着きました。2 年前までは基本的に本戦 2R まで進まなければ次の大会で本戦シードとならないようなポイント制度であったため、実力のある選手が本戦シードとして予選を免除されるという本来の意義に即したドローとなっていました。しかし、本戦シード 16 本、本直 32 本としたことにより、一度本戦まで行きさえすれば以後初戦敗退したとしても次の大会も本直になり、本戦選手の固定化に繋がってしまいました。主観的な意見になってしまうのですが、本直の選手より強いであろう選手同士が予選であたってしまい、本戦に進めないといったケースがあったのではないかと思います。そういった選手から、いまの制度をどうにかできないかといった意見をいただくことも少なくありませんでした。そういったことがあり、本戦ドローの見直しが議論に上がったわけです。

本題の新しい制度ですが、本直の本数を半分にし、その分予選からの枠を増やすというのを提案させていただきます。男子シングルスであれば、本戦シード 16 本、本直 16 本、予選上がり 32 本といった具合です。男子複、女子単、女子複も同様とします。これに伴い、本戦のオープンドローの仕方も少し変更したいと思っております。男子シングルスのお話をすると、始めはいままで通り本戦シード 16 人の場所を決め、次にその本戦シード選手の相手となる 16 人を予選上がりの 32 人のなかから抽選で決め、最後に残った場所に本直 16 人と予選上がり 16 人合わせて 32 人をランダムに入れていくという形です。今までは本戦シードと本直が 1 回戦であたるという事態が起こっており、選手から変えた方がいいのではないかと意見を多数いただいていた。新しいオープンドローにすることによってこのような事態を防ぐことができ、また、予

選上がりの選手にもいままで通り予選上がり同士であたる可能性があるため、本戦シード、本直獲得のチャンスを残すことができます。

予選の本数が増えたことによって大会日程が延びるのではないかと懸念される方もいるかと思いますが、試算してみたところ予選の試合数はほとんど変わらないということがわかりました。全体の試合数は変わらず、予選のブロックが増えることによって1人あたりの試合数は減るため、むしろ試合進行がしやすいと考えることもできます。

この話はあくまで東北学生テニス連盟からの提案という形をとらせていただいております、まだ決定したわけではありません。疑問点や賛成意見・反対意見などがある場合、東北学生テニス連盟 tohokugakuren2014@yahoo.co.jpまでご連絡ください。特に意見が出なかった場合、今年の東北学生テニス選手権大会からの導入を考えています。何卒よろしくお願いいたします。